

海外派遣安全対策

2001年9月の米国同時多発テロ以降、テロの被害への注意もクローズアップされています。近年のヨーロッパでのテロや事件の増加にともない、[危機管理](#)への対応が重要です。危機に直面して初めて対策を考えるとといった対応では安全は確保できません。また危機に対してあらかじめ準備をしている場合と、そうでない場合とでは、被る損害も大きく違ってきます。

危機管理体制の整備や海外での安全対策の推進は、被害にあわないために行うのが目的です。

海外派遣者は、言葉の問題、事故防止や事故発生時の対処など国内での行動とは異なった対応を求められることが多い。海外派遣者が身につけるべき事項について以下に示す。

海外派遣が決まったら

「海外においては、日本の常識では通用しないことがたくさんある」ということを忘れてはいけません。

持ち物や手続き上の準備もさることながら、現地の安全に関する事情を事前に調べ、周到に準備しておくことが重要です。

1. 健康管理

(1) 出発前の検査

出発前の健康診断を行い、既往歴(アレルギー、高血圧など)を記録しておきます。

この記録を持参すれば、現地で医者にかかるときに役に立ちます。現在、治療中の疾病がある場合は、主治医の病状経過診断書や薬の処方せんを持参します(健康診断書や処方せんは、英語あるいは派遣先の言語に翻訳しておきます)。

その際、歯の検査も受けることも重要です。

また、予防接種も出発前に受けておきます。派遣先の感染症やワクチンなどの最新情報は、[国立感染症研究所](#)のウェブサイトなどで確認することができます。

かかりつけの医療機関や保健所に相談することも一策です。

(2) 持参する薬など

邪薬・胃腸薬・目薬・下痢止めなどは持参したほうが無難です。そのほか、メガネ・コンタクトレンズの換えも持参します。

(3) 医療機関

派遣先では、日本人がよく利用する病院や診療所などの住所や電話番号のほか、そこまでの行き方や周囲の環境も確認します。

(4) 飲食物など

生野菜や生の魚介類などは食中毒などの原因になるので、控えましょう。飲料水は一度沸騰させた湯冷ましやミネラルウォーターとします。洗顔や歯磨き、飲料に入っている氷にも注意する必要があります。

また、食中毒を予防するために、食事の前やトイレの後はこまめに手を洗うことが重要です。さらにレストラン等で出されるおしぼりも不用意に顔を拭くと目の疾患にかかる場合があります。

(5) 媒介生物

熱帯や亜熱帯地域では特に蚊などの虫に注意が必要です。これらはマラリア・ジカ熱・デング熱・黄熱病・西ナイル熱などを媒介します。

外務省「[海外渡航者のための新型インフルエンザに関する Q&A](#)」参照。

2. 日常生活のポイント

(1) 現地に溶け込む

過度に目立たないように現地に溶け込むことが重要です。

そのためには、現地のルールに従うことが大前提です。郷に入っては郷に従え。

法令はもちろん、生活スタイルも現地に合わせます。

また、危険とされる場所には絶対に近づいてはいけません。

(2)夜間の外出は避ける

活動はできるだけ昼間に済ませ、夜間の外出は控えます。

どうしても外出しなければならないときは、ホテルでタクシーを呼んで利用します。

(3)置き引きなどに注意する

日本人は「金持ちで不用心」とのイメージがあり、置き引きなどのターゲットにされがちです。

置き引きなどが多発している都市では、電車やバスなどの乗り物の中でも安心できません。荷物は手から放す場合には、両足にしっかり挟むようにしましょう。

歩道はできるだけ真ん中を歩き、レストランなどでは荷物から目を離さないようにします。

(4)貴重品はホテルに預ける

現金、航空券、パスポートなどの貴重品はホテルのセーフティボックスに預けるのもよいでしょう。

ただし、パスポートがないと身分を証明できないので、コピーを持ち歩くようにします。

(5)現金とカードは分けて持つ

現金はできるだけ分けて持ち歩き、万一、置き引きなどに遭った場合でも、被害が最小限で済むようにします。

また、現金とクレジットカードは別の場所にしまう、人前でお金を数えないなども重要なポイントです。

(6)見知らぬ人の接近に警戒する

見知らぬ人の自宅に誘われたり、飲食物を勧められたりしても誘いに乗ってはいけません。

好奇心で付いていってしまうと、「いかさま賭博詐欺」や「睡眠薬強盗」の被害に遭う恐れがあります。

(7)「抵抗」より身の安全を確保する

もし、武器などで脅かされても抵抗はしないようにします。

悲鳴を上げただけで殺害されたケースもあります。

現金を渡すなど、まずは身の安全を第一に考えます。

(8)レストランなどでの話題に気をつける

レストランやバーなど大勢の前で自分の仕事やスケジュールを話題にしないようにします。

また、相手国に対する批判はできるだけ避け、政治・人種・宗教など批判の対象となるような話題には触れないようにします。

(9)日常行動をパターン化しない

いつも決まった時間に決まった行動をとる。例えばいつも同じ時間にホテルを出て、同じレストランで食事をとるといった日常行動がパターン化しないように心がけます。

また、不審な人物が近くにうろついていないかなど、事件の兆候に注意を払い、「いつもと違う何か」を察知したら、思い切って行動パターンやスケジュールを変更します。

安全のためにはボディガードを付けることも一策です。

(10)車を運転する際の留意点

派遣先では、運転をしないほうがよいでしょう。

どうしても自分で運転しなければならない場合には、あらかじめ国際免許証を取得し、次のことに留意しましょう。

- ・現地の交通法規を守り、安全運転を徹底する
- ・国境を越える場合は、パスポートなどの書類を携行する
- ・車の整備には万全を期す

- ・道路交通地図を携帯し、目的地までの運行ルートを決める
- ・車の乗降後は、すべてのドアをロックする
- ・運転席の窓は外部の音を聞くために1~2センチほど開ける以外、ほかの窓はすべて閉める
- ・財布やハンドバッグなどを外から見える場所(助手席など)に置かない
- ・ヒッチハイカーなどの他人は決して乗せない
- ・走行中も停止中も前方の車との間に十分な間隔を開けておく

3. 緊急時の対応

(1)交通事故への対策

交通事故に備え、海外拠点責任者・駐在員・在外公館・警察・救急車などの緊急連絡先の控えを車内に置いておきます。

万一、交通事故を起こしたり巻き込まれたりした場合は、以下の点に留意します。

- ・過失の度合いにかかわらず、誠実な対応を心がける
- ・負傷者がいる場合は、直ちに救急車を手配する
- ・相手の車の登録証や運転免許証から住所、氏名、連絡先を確認し、警察に通報する
- ・証拠保全および保険請求資料のために事故現場の写真を撮影する
- ・信頼できる人に連絡し、現場にきてもらう
- ・目撃者がいる場合、証言内容、住所、氏名、連絡先などをメモしておく
- ・担当警察官の官職、氏名、連絡先を確認する
- ・過失の判断がつかない場合に、早計に過失を認めたり、謝ったりしない
- ・身柄を拘束されたら、海外拠点責任者と在外公館(日本大使館・総領事館)に連絡し、必要であれば在外公館より館員の派遣を依頼する
- ・交通事故の概要を保険会社に連絡する

(2)自然災害への対策

地震、津波、台風などの自然災害が発生した際には、以下の点に留意します。

- ・海外拠点責任者に自分の居所を連絡する
- ・避難場所(ホテルなど)の安全が確保されている場合には外出しない
- ・外出する場合には、身分を証明するパスポートなどは必ず携行する
- ・海外拠点責任者の指示に従うほか、テレビやラジオなどの報道に注意する

(3)政情変化・テロへの対策

クーデターなどの内乱、自爆テロなどが発生した場合は、パニックを起こさずに、海外拠点責任者の指示に従って冷静に行動することが重要です。

初期段階においては、以下の点に留意します。

- ・テロやクーデターは2~3日で終結することが多いので、あせらず状況を見守る
- ・テロやクーデターが終結するまでは、社宅、事務所、ホテルなどで待機する
- ・クーデターでは、空港が攻撃対象となることが多いので、空港には近づかない
- ・海外拠点責任者の指示に従うほか、テレビやラジオなどの報道に注意する
- ・近くで発砲事件が起きたときは、急な動き(走り出したり、手を挙げるなど)をしない
- ・旅行代理店、航空会社、保険会社などとの連絡を密にする事前の対策として、水や食料の備蓄に心がけることや、緊急時の連絡先をまとめておくことが重要です。

心構えの基本

海外派遣期間を安全に過ごすための心構えの基本は、次の4箇条です。

いずれも当然のこのようですが、自ら気持ちを引き締める意味からも改めて列挙しておきます。

1. リスクを自覚する

海外では日本とは異なる常識・風俗習慣・国民性・政治・経済情勢に触れることになります。

誤解されないこと、誤解しないこと、トラブルに巻き込まれないこと、日本の常識では割り切れないこともあり得ること、それが自らのリスクにつながることを自覚する必要があります。

2. 自ら危険を招かない

デモ、テロや騒動の現場に近づかないこと、飲酒したら車の運転をしないことなど、日本国内でも社会人として常識の範囲のことで。

しかし、海外では異国情緒と開放感からつい足を踏み外しがちです。

甘い誘惑に負けず、常に自らを律して、油断せず、犯罪や事故・トラブルから距離を置くことを心がけることが重要です。

3. 目立たない

服装や行動が派手で人目につくと犯罪のターゲットになりやすいのは自明の理です。

現地の人に違和感をもたれないよう落ち着いた装いと行動を心がけます。

4. 冷静に行動する

不幸にして犯罪や事故に巻き込まれた場合もあわてず冷静・沈着に対応し、被害を最小限にとどめる努力を続けなければなりません。

基本は自分自身の身体生命の安全です。

派遣地域に関する調査

日本に寄せられる海外の一般情報は、量こそ膨大ですが、正確さや質には問題がある場合もあります。

公平で偏りのない情報を収集して、リスクを把握しなければなりません。

できるだけ新しい、生の情報を入手するには、次のような方法があります。

- ・派遣先の国から来た人の話を聞く
- ・最近現地に行った人から話を聞く
- ・航空券の手配を依頼する旅行代理店などから現地情報をもらう
- ・海外安全情報誌、情報サービスを利用する

(例)外務省 HP／国・地域別安全情報

→海外危険情報、国・地域別海外安全情報、国別テロ情報、海外医療情報など一定の情報が入手できます

何を調べるのか

海外出張・派遣をスムーズにこなすためには、出入国審査や通関審査など、国の入り口でトラブルを起こさないことが重要です。

このため、次の事項を事前に調べておきます。

1. パスポート以外に必要な書類はないか

査証(ビザ)、出入国・税関申告書など。

多くの国では、海外出張・派遣の範ちゅうに入るような短期の滞在では、査証(ビザ)は不要ですが、出入国や税関申告書の提出を求められることがあります。

出入国・税関申告書などは、飛行機の中でも手に入れることは可能ですが、事前に入手して間違いのないように記入しておくべきです。

2. 持ち込み品の制限はないか

煙草類、酒類などのほか、FM ラジオ、ビデオテープ、美術品などの持ち込みを制限している国もあります。

また、酒や煙草の免税制限は、国によって異なります。多量に持ち込む場合は、税金を払えばよいのですが、スムーズに通関するためには得策とはいえません。

3. 空港からの交通機関は安全に利用できるのか

海外では、空港からホテルまでの交通機関として、タクシーを利用することが一般的です。

空港でタクシーが利用できるか、タクシーの運転手に言葉が通じるか(英語が通じない地域もあります)など、事前に調べておきます。

<参考>

平成 28 年 7 月 1 日バングラデシュ・ダッカの飲食店襲撃テロ事件が起こりました。遠征の前には、まずは外務省の情報をチェック(<http://www.anzen.mofa.go.jp/index.html>)、そして内閣官房国民保護ポータルサイト(http://www.kokuminhogo.go.jp/shiryu/hogo_manual.html)にも「武力攻撃やテロなどから身を守るために」としてまとめられています。たくさん注意事項が書かれていますが、一読しておくといよいでしょう。起こる状況はいろいろでしょう。普段から習慣づけておくといよいこともあります。また起こったときには冷静に状況を見極めることが大事でしょう。まとめると次のようになります。参考にしてください。

テロ・紛争から身を守るためには

1. 常に出入り口・非常口の位置を確認する
2. ガラス窓、通りに面したところ、テラスに座るのを避ける
3. 木製以外の大きな柱や仕切り壁の近くの席に座る
4. 近くにポツンとしたバッグ、缶、不審物が無いか、見つけたらすぐに知らせる
5. 何かあったとき、騒がない、叫ばない
6. 何かが起こったら、外傷の有無や、身体がいつものように機能するか落ち着いて確認する、そしてそこで大事なのが深呼吸である
7. 五感を研ぎ澄まして、耳と目と、においを嗅いで状況を把握
8. 避難口が本当に安全なのか疑ってみる。状況を把握しないうちに、こうした出入口に殺到するのは得策ではない
9. 何か起きて状況を把握したらすぐに逃げる (逃げる・記録しない・立ち向かわない)
10. 頭を低くして、かがんで逃げる (死んだふりが通用しないことは多い)
11. 人とはぐれても探しに行かない

12. 現場でひとり立ち尽くしていたり、ひとりだけ違う方向に走り出すというテロリストの標的となる行動はしない。安全が確保されるまでは周りの人と協力しあい「絶対に助かる」という気持ちで行動することが重要である。
13. 化学兵器テロの場合はハンカチが有用
14. 口を開けておく（爆発音などで鼓膜が破れるのを防げる）
15. 携帯電話はすぐにマナーモードに（鳴ると首謀者に居場所が知れてしまう）
16. 屋外で爆弾テロに遭遇したら、とにかくすぐ立ち去る、逃げる
焦って避難口に殺到するのは禁物…という話は避難口の限られる屋内での話。屋外で爆弾テロに遭遇した場合は、とにかく現場から離れることを第一に考える
17. もし銃弾が当たってしまった場合、まずは、落ち着いて止血を。腕や脚を撃たれた場合は、撃たれたところより心臓に近い場所を、ハンカチや衣服などで縛ります。できるだけきつく縛ることで心臓からの血液が少なくなり、出血性ショック死を防ぐことができます
18. 常に万が一を考えておこう。楽しく安全に海外での時間を過ごすためにも、普段から頭の片隅で考えておきましょう